

2011年度 日高賞 受賞者 (2011年 9月 10日 受賞)

岡ノ谷 一夫 氏

受賞理由

岡ノ谷一夫氏は鳥のさえずりから人の言語に至るまで、動物におけるコミュニケーションの進化について、生物言語に関する研究を一貫して行いながら、動物行動の研究者以外にも広く伝える点でも成果をあげてきました。2003年に岩波書店から出された『小鳥の歌からヒトの言葉へ』にはじまり、2008年の『ハダカデバネズミ』（岩波書店、共著）、2010年の『言葉はなぜ生まれたのか』（文藝春秋）などの著作では、動物の音声コミュニケーションとヒトの言語の共通性に焦点を当て、氏自身が得意とする最先端の研究が一般にもわかりやすく楽しく紹介されています。言語の進化という分野は自然科学と人文社会科学の境界領域ですが、氏の一連の著作はさらに先端研究と一般社会の架け橋となる優れた著作であると言えます。また氏は、これらの著作に加えて、さまざまな雑誌に数多くのエッセイを執筆し、市民向けの講演会で講演を行い、テレビ・ラジオにも出演して、動物行動学の知識を社会に伝える活動を積極的に行っています。氏のこうした活動は、動物行動学の普及など社会との橋渡しという日高賞の趣旨に合致し、日高敏隆さんの名を冠した賞にふさわしいと評価されます。